

！ つなみ 津波のメカニズムと災害

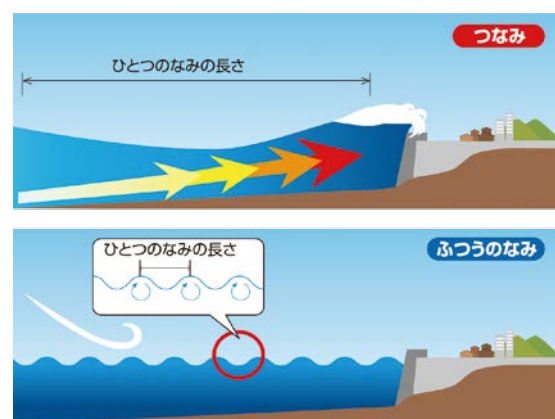
東日本大震災では、津波で多くの方が犠牲になりました。過去にも何回となく津波が日本の各地をおそっています。津波はどんなときに起こるのでしょうか。また、起こったらどういう行動をとればよいのか考えてみましょう。

1 津波が起こるしくみ（メカニズム）

津波は、主に海底で発生した地震によって起こります。地震で海の底が動いて、その上の海水をおし上げます。このおし上げられた水のかたまりが津波となって広がっていきます。東日本大震災ではこの海底で発生した大きな地震が原因で大津波が起こりました。

2 ふつうの波と津波のちがい

ふつうの波と津波はちがいます。右の図のようにふつうの波は風などの力によって一番陸側の波だけがおし寄せますが、津波は大量の海水がかべのようにおそってくるのです。被害の大きさが全くちがいます。



（気象庁HP）

※参考『仙台の自然』P40「地震と津波の発生」

3 津波による被害

津波は多くの被害をもたらします。東日本大震災でも多くの人々や



津波で流された車両（仙台市）



中野雨水ポンプ場をおそった津波

家屋、自然などが被害を受けました。

大きな船が津波の力で簡単に陸上におし流されたり、がんじょうな建物が全壊したりしました。

東日本大震災では、気象庁の予測を超える大津波におそわれました。そのため、警報が発令されても、すぐに避難せず、にげおかれてしまった人が多数いました。地震によっては、たった数分で津波が到達する地域もあります。強くゆれたときや警報が発令されたときは、すぐに避難できるように日頃からの備えや心構えが必要です。

各地に伝わる先人の知恵「津波てんでんこ」

「津波てんでんこ」とは、岩手県の三陸海岸地域の防災の言い伝えて、津波が発生したら、人助けの前に自分自身で高台にのぼることをすすめた言葉です。「てんでんこ」とは、一人一人、めいめいとという意味です。



しかし、東日本大震災においては、自宅に家財道具を取りに行ったり、家族をむかえに行ったりして、津波に飲みこまれてしまった例が各所で発生してしまいました。

あらかじめにげる場所を確認しておくなど、一人一人が「津波が来たらどうするか。」ということをいつも考えながら行動できるようにすることが大切です。